



災害対策推進・教育センター

VOL.42 2026年3月号

かわら版



Topics 火災対応マニュアルVer.3.0を公開しました

このたび、院内での火災発生時の行動や院内の自衛消防組織、消防用設備などについて記載した「火災対応マニュアル」を改訂し、Ver.3.0として、病院業務支援ポータルサイトおよび災害対策推進・教育センター院内専用ホームページに公開しました。

改訂内容① アクションカード (AC)の変更・追加

▼病棟火災AC

出火階 責任者(1)

火災発生を聞いたら

1. 出火場所を確認する
・副受信機を見る
・スタッフから情報を得る
2. 火災報知器・通報の実施を確認する
未実施の時は、確実に誰かに依頼する
3. 自分が責任者であることを示し、スタッフから離れない
スタッフにヘルメット、マスクを着用させる
4. スタッフへの役割分担、アクションカード付与
・初期消火担当…すぐに活動開始を指示する
・避難誘導担当…リーダーを任命し、すぐに活動開始を指示する
5. 病棟内に放送を流す(落ち着いて、ゆっくりと)
「お知らせします。火事です。火事です。」(2 回繰り返す)
職員の誘導に従って行動して下さい。」(2 回繰り返す)
「煙の侵入を防ぐため、部屋のドアを閉めてお待ちください。職員が誘導します。」(2 回繰り返す)

・報告受領としてホワイトボード、メモ等を活用する
・病棟図、患者リスト(病床マップなど)を準備する
・責任者、避難誘導リーダーの補佐の担当を考慮する
(補佐業務:報告受領代行、リストやマップのコピー、メモ記載、伝言など)

枠組や色づかいなどを
よりシンプルにして見やすく



▼自衛消防本部AC

統括管理者①

自衛消防本部

コールサイン:統括

火災発生を聞いたら

- ①副受信機の警戒区域図一覧図で火災場所確認
- ②初期対応支援者(総務課・経営管理課)を派遣する
- ③火災の状況に応じて初期対応支援者(医事課・医療支援課)を派遣する
- ④初期対応支援者(医事課・医療支援課)は、パニック抑制のために院者に声をかけ続ける

氏名 行き先 出動時刻 帰着確認

1. 病棟1階防災センターへ向かい、火災の情報を確認し、管理権原者の指示のもと「自衛消防本部」(以下、本部)の設置を宣言する
2. 人員に役割を付与する

① 総括・通信連絡班
② 初期消火・物資班
③ 避難誘導・安全管理班
④ 医療・救出救護班
⑤ 施設調査班

※アクションカードを渡し、活動開始、状況を報告するよう指示する

事務部によって構成される「自衛消防本部」のACを追加



火災をいち早く知らせよう!

火災報知器



消火栓ボックスの上部に設置されている火災報知器は、火災の発生を院内にいち早く知らせる発信機です。火災を発見したら、「火事だ!」と叫んで、近くの火災報知器のボタンを押しましょう。消火栓ボックスの設置場所は、「火災対応マニュアルVer.3.0」P.142～に記載されています。

改訂内容② 非常放送鳴動時の初期対応をACに

昨年5月に発生した火災報鳴動による守衛室への電話集中を受けて、火災警報設備が鳴動した際の初期対応をACに整理して、院内に周知しました。

▼火災警報設備鳴動時AC (黄)

「火災?どこで?本当に?」

火災警報設備(副受信機・非常放送)鳴動時の職員の行動(病棟・外来・部門部署)

副受信機が鳴動したら副受信機の画面を確認する
非常放送が聞こえたら場所(○棟△階)を聞き取る

火災(発報)が自部署の階

火災場所の特定

副受信機がある
→警戒区域図一覧図で場所を特定

副受信機がない
→自部署内の状況確認

火災を発見したら
速やかに初期消火

火災(発報)が自部署以外の階

状況確認できるまで

- ①落ち着いて待機
- ②パニック防止のため在院者へ声かけ

例 現在、職員が確認しています
その場でお待ちください
エレベーターは使用しないでください

守衛室・中央監視室に電話しない!

非常放送(肉声放送または自動放送)により火災情報が周知されるまではアクションカード等を準備して待つ

非常放送を聞いた後の行動

「火災が発生しました」
「落ち着いて」と呼びかけ
避難誘導

「火災ではありませんでした」
在院者に呼びかけ
業務を継続

*避難は①出火階→②直上階の順
*火災アクションカードを使用する

*驚いて負傷した人や気分不快の人がいないか確認

ポイント1 火災警報設備が鳴動しても、守衛室に電話をしない!

ポイント2 副受信機と警戒区域図を見比べて、火災場所を特定!

▼副受信機と警戒区域図



Topics 病院情報システム運用継続計画 (IT-BCP) 訓練を行いました

1月20日(火)防災会議(防災WG、防火検討委員会)合同会議にて、医療情報管理部主催による情報伝達、指揮命令系統訓練を行いました。訓練では、近年発生しているサイバー攻撃の事例として大阪急性期・医療センターの事例が紹介されました。その後3グループに分かれ、病院情報システムに危機的状況が発生した場合の情報伝達、指揮命令系統について、シナリオを読み合わせながら確認を行いました。



藤井医師による講義



シナリオ訓練

知っていましたか? ランサムウェア

ランサムウェアとは?

「身代金」を意味する「Ransom」と「Software」を組み合わせた言葉。パソコンやスマートフォンをウイルスに感染させて、保存されているファイル等のデータを勝手に暗号化することで、使用できない状態にした後、それを元に戻すことと引き換えに「身代金」を要求する不正プログラムのこと。

ランサムウェアに感染すると、ファイルが暗号化されて使用できなくなり、パソコンの画面には、ファイルの復合のための金銭の支払いを要求するメッセージ、又は連絡先が表示される。(政府広報オンラインより抜粋)

ランサムウェア感染例



医療情報管理部副部長 藤井 武宏 です

Face



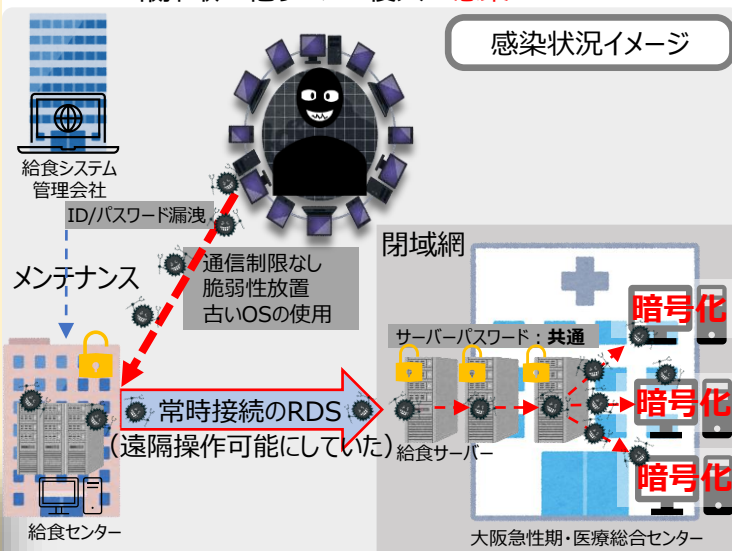
医療情報管理部では、昨今増加する医療機関へのサイバー攻撃に備え、IT-BCP(情報システム業務継続計画)の策定を進めています。攻撃発生時の初動対応マニュアルの整備や、実践的な訓練の実施を通じて、診療継続体制の強化に取り組んでいます。

医療機関におけるサイバー攻撃の過去の事例 大阪急性期・医療センターの事例

病院概要 病床数: 865床、診療科: 36診療科
大阪府基幹災害拠点病院

インシデント概要 被害発生日: 2022年10月31日
復旧期間: 約2.5か月
通常診療再開: 2023年1月10日
被害総額: 約20億円(システム再構築費等)

侵入経路 給食センター→病院給食サーバー→病院システム情報搾取→他サーバー侵入→感染



PCがおかしいと感じたら...

ヘルプデスク(医療情報管理部)へ連絡

平日: ヘルプデスク
時間外: 事務当直

感染した端末をネットワークから隔離

他の端末への感染を防ぐため有線LANであればLANケーブルを抜く。無線LANであれば、端末を機内モードに設定する。

機内モード設定方法: 【Fn】キーを押しながら【>】キーを押す

感染した端末の電源を切らない!!

復元に必要な情報が残っていることがある。被害、影響、感染元がわからなくなる可能性がある。

Center Message

近年、サイバー攻撃は巧妙化・深刻化し、その脅威は質・量ともに増大しています。内閣官房国家サイバー統括室が公表している資料「サイバー対処能力強化法及び同整備法について」によると、サイバー攻撃は年々増加しており、各IPアドレスに対して約13秒に1回の頻度で攻撃の試みがあるとされています。サイバー攻撃により、電力・水道・通信・医療などの重要インフラが停止した場合、大規模な社会的影響を及ぼし、災害対応の枠組みで扱われる可能性もあります。

先月9日には、日本医科大学武蔵小杉病院においてサイバー攻撃による個人情報漏えいが発表されました。ナースコールの不具合をきっかけに発覚し、医療機器保守用VPN装置を経由した侵入の可能性が指摘されています。

特に、年末年始などの長期休暇期間や、2~3月のシステム更新時期は、一般的にサイバー攻撃の標的になりやすいとされています。院内LANだから安全という認識は持たず、パソコンの動作が遅い、見慣れない画面が表示される、ファイルが開けないなど、少しでも異常を感じた場合は放置せず、速やかにヘルプデスクへご連絡ください。あわせて、万一システムが停止した場合に備え、平時から紙運用の手順や代替方法を各部署で再確認しておきましょう。職員一人ひとりの早期発見・迅速な報告が、被害の拡大防止につながります。(センター臨床工学技士 あ)

災害拠点病院として地域で一番の災害対策を目指して